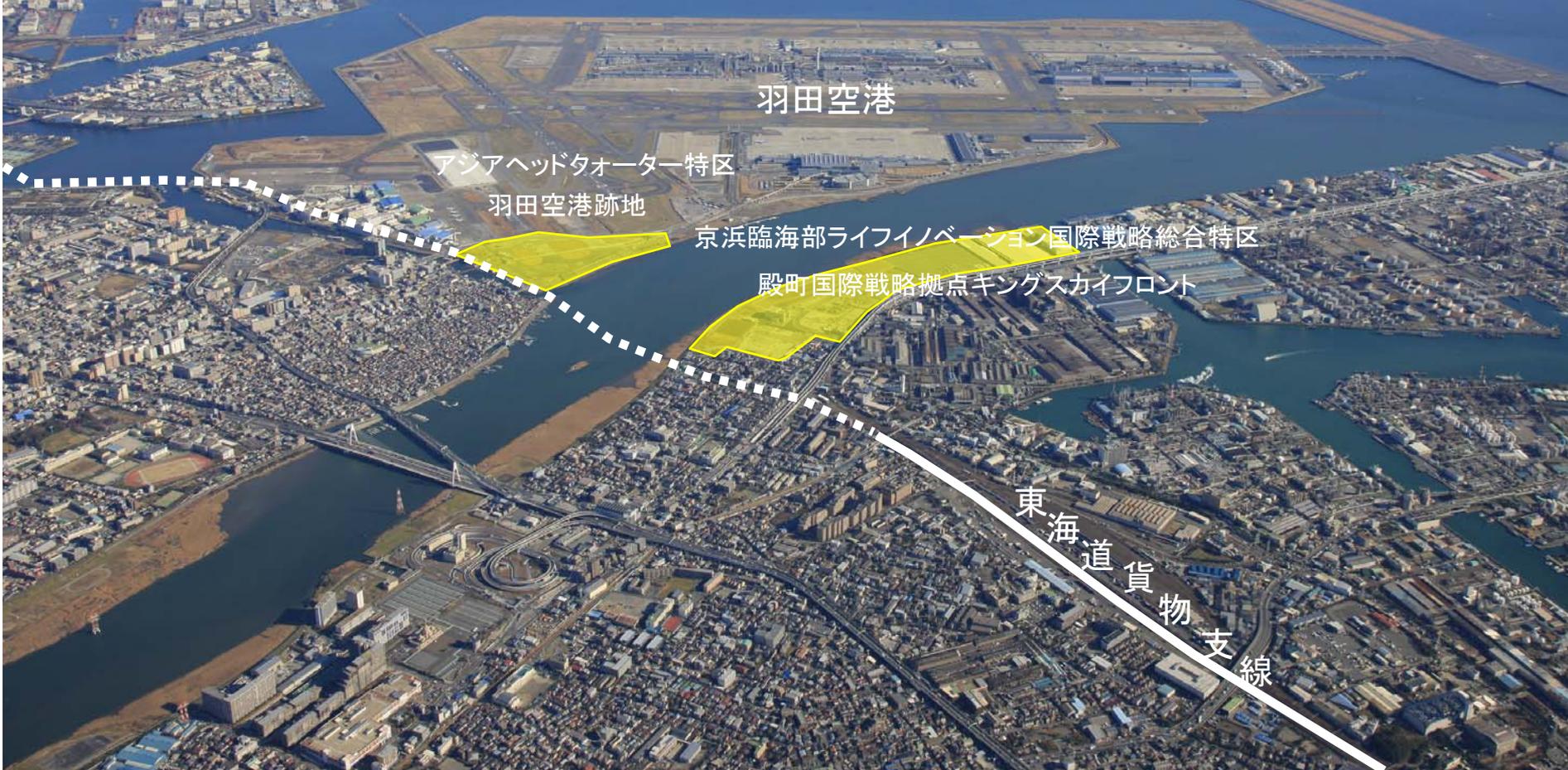
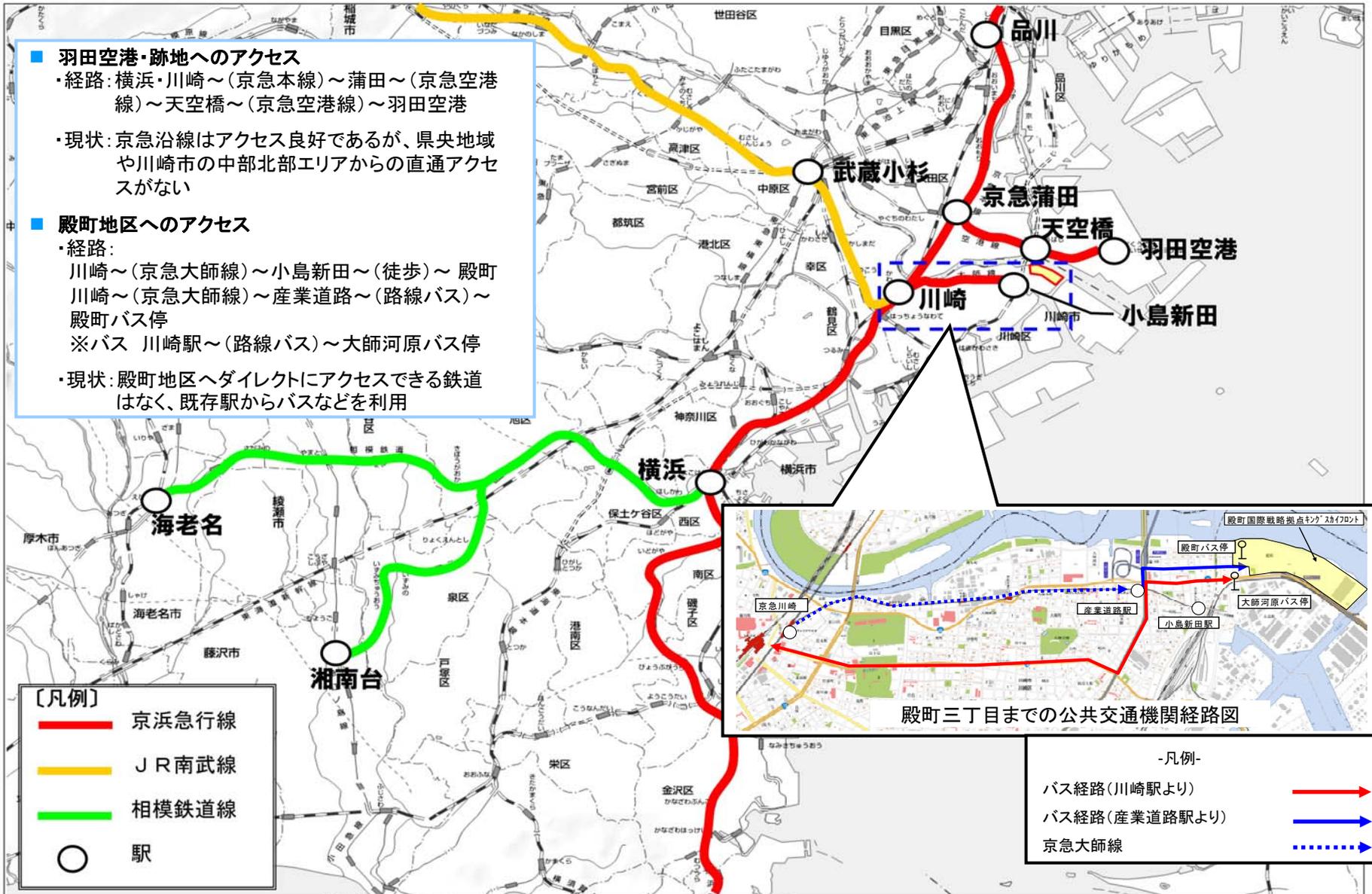


羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への 鉄道アクセス向上について ～東海道貨物支線貨客併用化の検討の活用～



1 羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への神奈川側からの鉄道アクセスの状況



2 東海道貨物支線貨客併用化の検討

■ 目的

- ・京浜臨海部の国際的な産業拠点としての再編整備への寄与
- ・羽田空港への鉄道アクセスの強化

■ 区間

- ・桜木町～浜川崎～塩浜～東京貨物ターミナル
- 品川
 - 東京テレポート
- ・延長 約33.3km

■ 検討体制

- ・「東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会」
- 【構成団体】
- 神奈川県(事務局)、横浜市、川崎市、東京都、大田区、品川区

■ 国における位置付け

- ・運輸政策審議会答申第18号「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画」(平成12年1月)に位置づけ
- ・目標年次:2015年(平成27年)
- ・整備計画:「今後整備について検討すべき路線(B)」

■ 主な効果

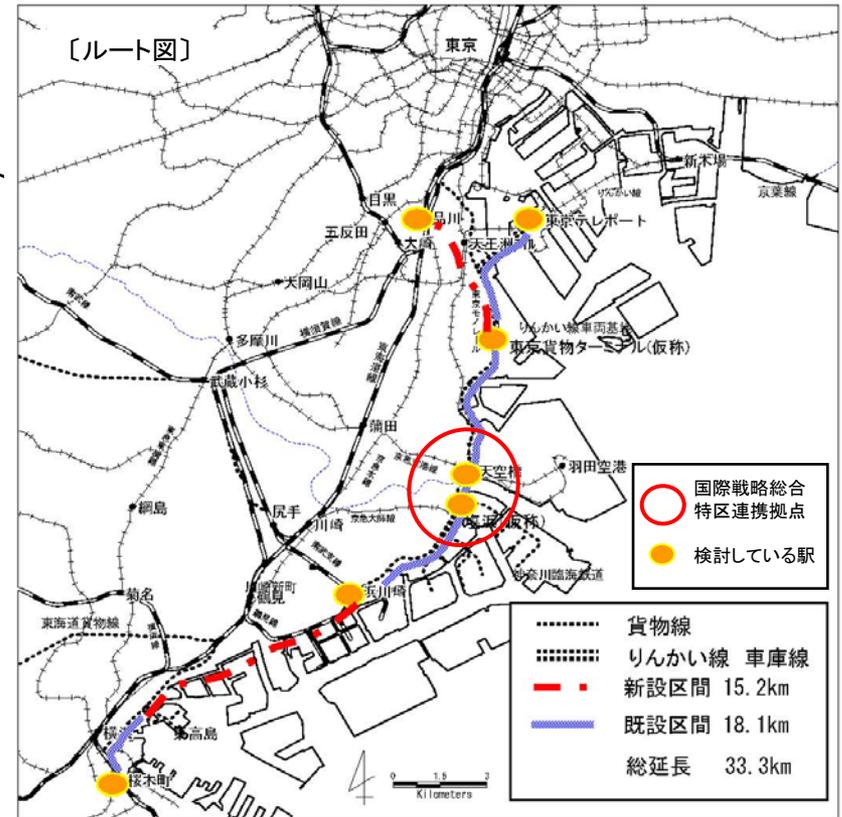
- ・京浜臨海部の再編への寄与、羽田空港への鉄道アクセスの強化
- ・首都圏における新たな鉄道ネットワーク形成への寄与
- ・東海道線等の既設路線の混雑緩和

■ 主な課題

- ・収支採算性、事業主体、貨物列車の運行ダイヤとの調整 等

■ 取組状況

- ・実現に向けては、沿線のまちづくりの進展などによる旅客需要の高まりが不可欠であり、国の計画への位置付けも重要
- ・中長期的な課題として捉え、機運醸成に向けた取組みや沿線の社会動向・開発動向、国の動向の把握など、関係者で協力して実施している



3 東海道貨物支線貨客併用化の検討を活用した羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への鉄道アクセス強化

■ 国の動向

- ・東京圏における鉄軌道整備の現状把握と今後の方向性の検討に関する調査〔H23年度〕

「調査報告書」より
・18号答申における「混雑の緩和」などの課題について、一定の進展が見られた
・18号答申以降の社会経済状況の変化等による、新たな課題への対応が求められてきている（国際競争力強化など）

- ・次期答申に向けた東京圏における望ましい都市鉄道のあり方に関する調査〔H24年度〕

■ 運政審18号答申以降の環境変化

【都市計画・開発計画関連】

- ・品川駅周辺、臨海副都心、みなとみらい地区などにおける土地利用の転換、まちづくりの進展
- ・羽田空港の再拡張、国際化〔H22〕
- ・多摩川を挟んだ兩岸の国際戦略総合特区の指定〔H23〕

【交通関連】

- ・東海道新幹線品川駅開業〔H15〕
- ・横須賀線武蔵小杉駅開業〔H22〕
- ・リニア中央新幹線整備計画の決定〔H23〕
- ・相鉄JR直通線開業予定〔H27〕

■ 考え方

- ・既存の旅客線、貨物線の活用
- ・事業が進められている相互直通線の活用
- ・東海道貨物支線貨客併用化の検討内容の活用

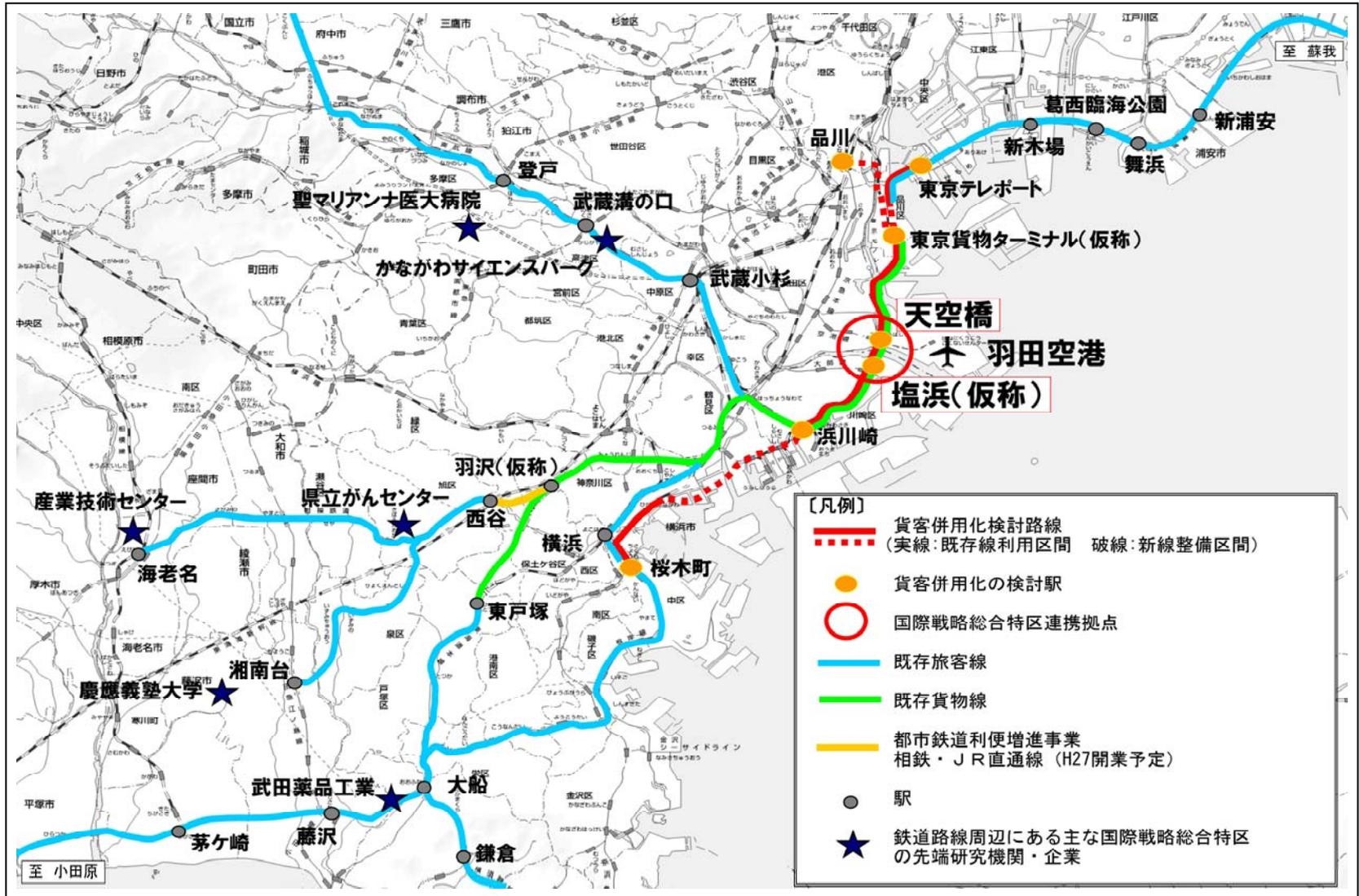
⇒ 県央エリア、南武線沿線エリア、湘南エリア等から、羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への鉄道アクセス強化



期待される効果

羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点の鉄道アクセス向上が図れ、ヒト・情報の交流が活発になり、競争力の強化が期待できる。

東海道貨物支線貨客併用化の検討を活用した羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への鉄道アクセス機能の強化(イメージ図)



注) 鉄道路線について記載した図であり、運行については別途調整が必要

4 今後の進め方

■ 基本的な考え方

- ・ 羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への鉄道アクセス強化については、この拠点の整備状況等を踏まえながら、国際競争力強化に向けて着実に取り組んでいく必要がある。
- ・ これまでの東海道貨物支線貨客併用化の検討に加えて、既存及び事業中の鉄道ネットワークの有効活用の視点も入れながら「羽田空港・国際戦略総合特区連携拠点への鉄道アクセス強化」について調査検討を進めていく。

■ 具体的な進め方

- ・ 東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会を基本に、本特区連携検討会の関係者、国土交通省、学識者、鉄道事業者等の協力を得ながら、検討を進めていく。

■ 取組内容

- ・ 既存の鉄道ネットワークの活用に向けた効果、課題等の調査・検討
- ・ 国際戦略総合特区連携拠点をはじめとする京浜臨海部のまちづくり等の状況に関する調査・検討
- ・ 東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会による調査列車の運行
- ・ 国における次期答申に向けた取組みへの対応
- ・ ホームページによる情報発信等の機運醸成